

盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（東京湾活き活き研究会）

日時：2014年5月16日（金）10:30-12:30 干潮時刻 11:46 天気 晴

場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

これまで継続的に観察している木更津漁協の潮干狩り場に行きました。下図の赤い点線の範囲（ルートは赤線で表示）を歩き、所々で熊手、手網、スコップを用いて底生動物の状況を確認しました。潮が最も引く日を選んだのですが、朝から南風が強くてあまり潮が引きませんでした。水深があったために、残念ながら干潟の縁辺部までは行けずに、観察範囲は岸から400mまでとしました。



図-1 観察の範囲と観察ルート

【当日の潮位】

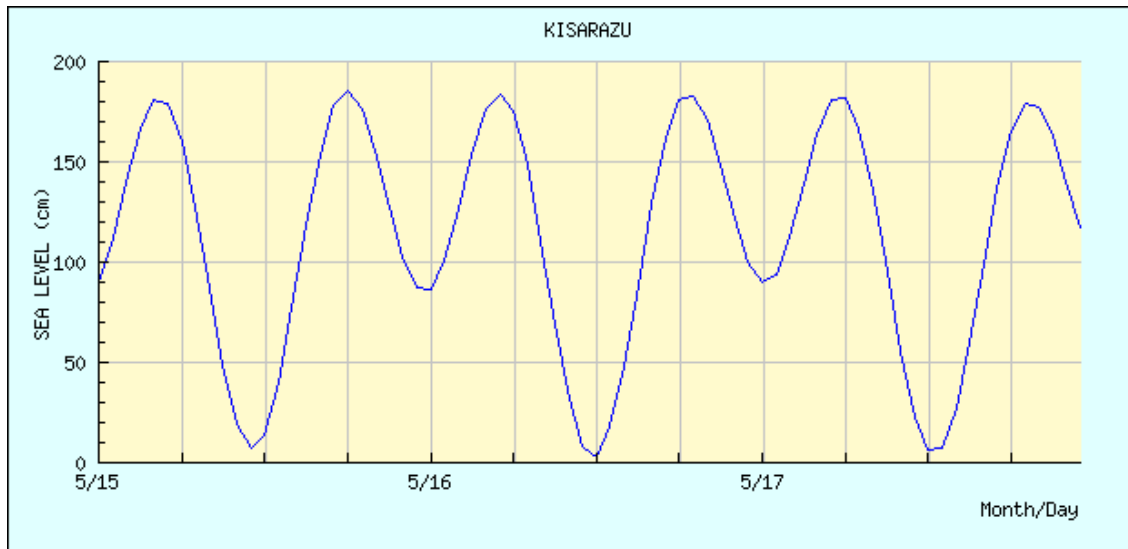


図-2 推算潮位 (気象庁潮位表：木更津) 2014年5月16日 11:46(3cm)

【潮干狩り場】

木更津駅から海に向かって真っすぐの下ると木更津港に着きます。かつて川崎－木更津間のフェリーボートが航行していた航路にかかる赤い橋を歩いて渡り、潮干狩り場に入ります。

10時の時点での干潟の状況が写真-1、帰る時の干潟が写真-2です。潮の引きが悪いのは南風が朝から吹いているからであろうと、地元の漁師さんも言っておりました。



写真-1 木更津漁協の潮干狩り場 10時頃



写真-2 木更津漁協の潮干狩り場 13時頃

【潮干狩り場】

平日なので着いた時はまばらな潮干狩り客でした。その後、小学校の潮干狩り（全校行事）の来客があり、一気に500名が増えました。

波打ち際にアオサ等の海藻類やゴミの打ち上げはなく、さわやかな磯の香りが漂っておりまして。干潟の砂泥質はぬかるむことなく歩きやすい状態でした。



写真-3 木更津漁協の潮干狩り場の状況

☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 護岸の直近では貝殻が混じる砂地でやや黒みがかっておりました。護岸から 20m 位離れたところではきれいな砂地で、すぐに、アサリ、シオフキガイ、マテガイが見つかりました。干潟の掃除屋の巻貝であるアラムシロガイも結構いました。



写真 4 岸寄り、護岸付近の状況

【岸から 100mあたり】

潮干狩り客が比較的多いあたりです。底質の状況は砂泥質で貝殻片の混入が少ない状態で、酸素が少ない状態を示す還元層（黒色を呈する砂泥の層）や硫化水素臭はありませんでした。

アサリが結構とれたので、昨年よりも多いのではないか、という意見が参加者から出てきましたが、どうやらこのあたりは、潮干狩り客用にアサリを撒いているようでした。稚貝は昨年よりも少ないと感じましたが、昨年は7月下旬であり、調査月の違いもあるのかもしれません。



写真4 岸から 75mあたりの状況



写真4 岸から120mあたりの状況・・・模様注目！

【岸から 200-400m】

砂地は変わりませんが、沖に行くに従い潮干狩り客は減り、海草であるコアマモが増えました。昨年同様にシオフキガイが少ない状況でした。400m よりも沖には、11:30 の時点で潮が引かずに水深がほどほどありましたので、行くことを諦めました。潮干狩り場のおじさんに聞いたところ、バカガイは少ないとのことでした。



写真 5 岸から 200-400m の状況



繁茂するコアマモ (赤褐色の海藻はオゴノリ)



アサリの殻の模様が違います!!
(味の違いはありませんでした。)

左のアサリは岸から 400m 付近 右は 100m 付近で採集、中央上はツメタガイ

写真 6 岸から 400m の状況

【その他、見つけた生き物たち】



マメコブシガニ



オサガニ類



アオノリ類



アナアオサ



オゴノリ



ハネモ



ボラの稚魚とエビジャコ



ハゼ類の稚魚

写真7 干潟の生き物たち (1)



ハゼ類の稚魚とキサゴ（丸い巻貝）



コアマモ場にいたツメタガイ

写真 8 干潟の生き物たち (2)



アサリとアサリの稚貝とアラムシロガイ（巻貝）



ツメタガイの卵塊



大きなアサリ(100m 付近)



タマシキゴカイ（クロムシ）の巣（糞塊）



タマシキゴカイの卵塊

写真9 干潟の生き物たち (3)